



学校だより

令和4年1月31日

ひびき

2月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

先に見える光

校長 大塩 啓介

2月に入ります。新型コロナウイルスの感染状況が毎日の様に悪化の一途をたどる中、学校でも活動の制限などを余儀なくされています。なかなか、先行きが見通せません。

しかし、こうした中ではありますが、4日から北京で冬季オリンピックが開催されます。夏のオリンピックの時もそうでしたが、我々が新型コロナウイルスの流行で気持ちが落ちていくところに、明るい話題を提供してくれました。当時、開催について様々な意見が出ていましたが、日本人選手の活躍により、国全体の雰囲気を変えてくれました。それから半年がたち、いよいよ今度は冬のオリンピックです。

報道をみていると、日本人選手の活躍が期待される種目も多く、メディアに出てくる機会も増えてきています。フィギュアやスピードなどのスケート競技、モーグルやノルディックなどのスキー競技、スノーボード競技等、楽しみな競技がたくさんあります。「オミクロン株」におびえている私たちに、参加する選手の活躍で、また勇気をもらえることを期待しています。

昨年も新型コロナウイルスにより、世の中が停滞し、たくさんの変化がありました。しかし、以前にもお伝えしましたが、こうした現状をこまねいているのではなく、前に進めなければいけません。今、横浜市の教育研究会では「学びを止めない」という言葉をスローガンに、それぞれの学校で様々な取り組みをしています。これまでも巻頭言でお伝えしてきたように、今までの常識が大きく覆るようなことを取り組んできています。分散登校時のリモート学習が行えたことは、正に大きな変化ということが出来ます。そこから、タブレットを用いた学習活動は各クラスで日常的に行われ、12月からはweb上で行える学習ドリル「スマイルネクスト」を試験的に導入し、いつ休校・学級閉鎖になっても対応できるように備えています。今、外遊びやカードゲームなど集まって行う遊びができないので、それを休み時間に取り組んでいる児童もいます。導入に伴い、PTAの予算から1人1本タッチペンをご購入いただき、学習しやすいようにしました。

先の見通しはまだまだ持てませんが、新しく変わる事への光は見えてきています。こうした新しい変化を逃すことなく、次につなげてまいります。